

第46回旭川北高等学校同窓会

旭川市中・市高 北高同窓会 総会・懇親会

とき／2011年8月13日(土)午後6時より

ところ／旭川グランドホテル 3階グランドホール【旭川市6条通9丁目】



熱^{あつ}せる血^ち潮^し也^お

健^{けん}児^にの^ど気^き

あしたの君へ

校 歌

mf 明るく普通の速さで



あたらしきぶんかのはな
 のさんらんとやがてかほらむみ
 むづきよくやまむらさきにめ
 ぐりたるまなびのにはよあ
 ふるるよろこびいぎてをとりにや
 むなきあゆみにまことをとめむ

校 歌

木村五一 作詞
 津田 甫 作曲

一、

あたらしき文化の華の
 燦爛とやがて薫らむ
 水清く山紫に

めぐりたる学びの庭よ
 あふれる歓喜いぎ手を把りて
 止むなき向上に真理を尋めむ

二、

たくまかいなちから
 逞しき腕の力は
 遠つ代の祖に承けたり

あせいそしみ
 汗あゆるその勤勞の
 ななくにゆた
 成せる郷土豊けき穰
 とこしへ栄行くこの世に生きて
 やつちかいきよ
 止むなき教養清純を讃めむ

三、

かぐはしき緑の夕
 白瑤の樹水咲く朝

まゆひい
 眉秀で魂澄む子等が
 まどろして誉を謳ふ
 見よ見よ祖国の前途は新
 やのぞみ
 止むなき希望に光明を添へむ

あしたの君へ

熱せらる血潮也 健児の気

もくじ Contents

同窓会長あいさつ	1
学校長あいさつ	2
平成22年度会務・決算報告	3
同窓会規約	4
札幌・東京・岩手同窓会から	5
第35期恩師の近況	7
特集①「北高祭の今昔」	11
特集②「同窓生の活躍」	15
同窓生から	21
今春の進路状況	23
北高NOW (部活動報告)	24
同窓会役員及び幹事	29
実行委員長・次期当番期あいさつ	31



時間を飛び越え



北海道旭川北高同窓会長
(北高18期)川島 崇 則

旭川北高等学校を卒業され、各界でご活躍中の皆様、いつも母校北高に温かいご支援をいただきありがとうございます。

今年も同窓の皆様方のご協力のもと第46回同窓会が盛大に開催されることとなりました。当番期として、早い時期から周到な準備を進めてこられた児玉賢一さんを実行委員長とする35期の皆さんはじめサブ期の方々のご努力に心より敬意を表すところであります。

学校創立70周年にあたっては昨年秋には、学校、PTA、同窓会が一丸となって心に残る様々な記念行事を催し、いずれも成功のうちに終えることができました。ご支援、ご協力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。

さて、旭川北高には「財団法人旭

川北高会」「後援会」「PTA」そして「同窓会」と母校を支える4本の柱があります。

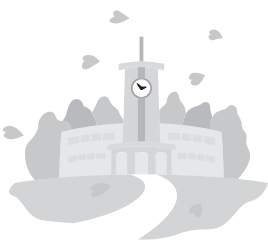
この4本の柱のひとつ旭川北高会が今年4月から一般財団法人に移行しました。長引く低金利政策の影響から、基本財産の利息だけで運営することが困難な状況となっていました。従来、従来は財団法人から一般財団法人に移行することにより解決できました。

これとともに、これまで北高に頼っていた財団の事務作業を学校から切り離してはどうかという話もありましたが、長年の歴史と伝統と北高会が果たしている公益的な意義にご理解をたまわり、従来と同じ形で進むことができるようになりました。

私自身北高会の理事を務める立場で

もあり、今回の特段の配慮には深く感謝申し上げます。この場を借りて御礼申し上げます。

本日の同窓会総会・懇親会では、数年ぶり数十年ぶりという懐かしい出会いもあることでしょう。激動、波乱の時代を生き抜いてきた北高卒業生が、過ぎ去った時間を飛び越え、夢あふれていた高校時代に戻り、ほつと息つける瞬間でもあるでしょう。同窓会での再会が、いつまでも皆様方の心に、良い思い出として残っていくことを願ってやみません。



不易としての同窓会



北海道旭川北高等学校 校長

伊藤 一正

日ごろから同窓生の皆様には本校発展のためご支援・ご協力を賜り、衷心より御礼申し上げます。今年4月に赴任してから半年ほど経ちましたが、9つ目の赴任校であるにもかかわらず初めての上川管内勤務となります。深川市で生まれ育ったこともあり気候にも慣れたところですが、以後どうぞよろしくお願いいたします。

さて、「同窓会」という言葉ほど人の心を和まし、過ぎ去った日々を懐かしく思わせる響きを持つものはないのではないかと。そんなことを最近私は考えるようになりました。馬齢を重ねて、そうした時期に到達したのかも知れません。

英語の「同窓会」に相当する単語の語源はラテン語の「育てられる」

に由来しています。つまり、同じ学校で育てられた者が集うのが同窓会というわけです。私が本校に赴任するまで勤務していた高校は3月に閉校になりました。多くの同窓生が惜別の会に集まり、最後に涙を流しながら校歌を歌っていた姿が未だに忘れられません。自分たちを育ててくれた母校を失う気持ちが痛いほど分りました。

本校の同窓会はどうでしょうか。世の中の動き全てが昔とは比べものにならないほど速くなってきた今日、同窓生の皆様も仕事などで多忙な毎日を送られていることと推察いたします。しかし、本校の同窓会は他校に負けず劣らず非常に活発です。ネット上の各地の同窓会のサイトや各期が設置しているサイトの数からも

それが分かります。同窓会誌を拝読しますと、場所によって同窓会の出席者の人数が減少してきたということが記されていますが、これは、無関心というよりは、就業構造の変化など世の中の移り変わりが影響しているのではないのでしょうか。

現在の本校の生徒たちを見てみると、団結力が強く、ケータイ文化の中で良い意味で現代風な親密な友人関係を築いているように思えます。きっと卒業後もそうした関係を同窓会という形で継承していつてくれるものと確信をしているところです。学校としましては今後も同窓会との結び付きをさらに強めていきたいと考えております。どうかこれまで以上のご支援・ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶いたします。

平成22年度会務報告

平成22年

4月8日・入学式（川島会長）
4月19日・役員・幹事長会議（ポスター・チケット配付）
（旭川グランドホテル）

6月23日・会計監査（旭川グランドホテル）
6月23日・第4回役員会（旭川グランドホテル）
7月10・11日・北高等学校祭（同窓会露店参加）

8月14日・第45回同窓会総会（旭川グランドホテル）
（ゴルフコンペ）
学校祭収益金贈呈

9月24日・当番期引継会（旭川グランドホテル）
10月5日・第1回役員会（旭川グランドホテル）
10月22日・札幌同窓会（川島会長他5名・釣前校長参加）
11月5・6日・北高創立70周年記念事業（北高校体育館）
懇親会

12月1日・同窓会入会案内発送

平成23年

1月30日・第2回役員・幹事長会・新年会（旭川グランドホテル）
2月28日・同窓会入会式 ノースウインド18号発刊

3月1日・卒業式（川島会長他3名）
4月8日・入学式（川島会長・尾崎副会長）

4月19日・役員・幹事長会議（ポスター・チケット配付）
6月24日・会計監査
6月24日・第4回役員会（旭川グランドホテル）

7月9・10日・北高等学校祭（同窓会露店参加）
8月13日・第46回同窓会総会（旭川グランドホテル）
（ゴルフコンペ）
学校祭収益金贈呈

旭川北高同窓会平成22年度一般会計決算書

◎収入の部

(単位：円)

区分	予算額	決算額	比較増減	摘要
1 繰越金	115,723	115,723	0	
2 同窓会費	1,160,000	1,182,000	22,000	
(1)入会金	512,000	528,000	16,000	264名×2,000円
(2)終身会費	648,000	654,000	6,000	218名×3,000円
3 雑収入	477	181	▲296	貯金利子
合計	1,276,200	1,297,904	21,704	

◎支出決算

(単位：円)

収入額	支出額	残高
1,297,904	872,850	425,054

残高425,054円は次年度へ繰越

◎平成22年度特別会計決算書

(単位：円)

収入の部		支出の部		残金
第45回総会準備金返還	300,000	第46回総会準備金貸付	300,000	次年度へ繰越 726,870
北高第11期御祝儀(12名)	120,000	御招待者(北高11期生)会費	60,000	
貯金利子	349			
前年度繰越金	666,521			
合計	1,086,870	合計	360,000	

◎支出の部

(単位：円)

区分	予算額	決算額	比較増減	摘要
1 総務費	880,000	600,800	▲279,200	
(1)事務費	20,000	10,000	▲10,000	消耗品費
(2)会議費	310,000	236,000	▲74,000	役員会、幹事長会等開催費
(3)通信費	36,000	20,105	▲15,895	切手、はがき、電話
(4)印刷費	10,000	10,000	0	会議開催案内状等印刷費
(5)慶弔費	25,000	20,000	▲5,000	香典、生花、弔電
(6)支部活動費	110,000	100,000	▲10,000	札幌同窓会出席者旅費、活動助成金
(7)学校事務費	20,000	0	▲20,000	学校事務局謝礼
(8)後援会費	144,000	0	▲144,000	学校後援会費
(9)卒業記念品費	150,000	164,180	14,180	卒業生記念品
(10)後援会事業費	20,000	30,000	10,000	学校祭協力費
(11)雑支出	35,000	10,515	▲24,485	講演会参加諸経費、振込手数料
2 文化費	275,000	272,050	▲2,950	ノースウインド第18号印刷費、活動費
3 予備費	121,200	0	▲121,200	
合計	1,276,200	872,850	▲403,350	

◎同窓会資産

(単位：円)

累計額	平成22年度 積立額	平成22年度 支出額	合計累計額	摘要
9,007,604	3,608	0	9,011,212	積立額は郵便貯金利子

◎同窓会記念事業基金

(単位：円)

累計額	平成22年度 積立額	平成22年度 支出額	合計累計額	摘要
2,242,864	211,914	1,001,680	1,453,098	積立額は郵便貯金利子と実行委員会より寄付

北海道旭川北高等学校 同窓会規約

●第1章 総則

第1条 本会は、北海道旭川北高等学校同窓会と称する。

第2条 本会は、会員相互の親睦を図り、合わせて北海道旭川北高等学校の健全なる発展に寄与することをもって目的とする。

第3条 本会は、その事務局を北海道旭川市花咲町3丁目北海道旭川北高等学校に置く。

●第2章 事業

第4条 本会は、その目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 会員の親睦を図ること。
- (2) 会誌及び会員名簿の発行
- (3) その他本会の目的を達成するために必要と認める事業

●第3章 会員

第5条 本会は、次の各号に該当する者をもって構成する。

- (1) 旭川市立中学校卒業生
- (2) 旭川市立高等学校卒業生
- (3) 旭川北高等学校卒業生
- (4) (1)(2)(3)各号以外（転・退学した者）で、本会に入会を希望する者。

●第4章 顧問

第6条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会において推挙する。

第7条 顧問は、役員会の諮問に応ずるものとする。

●第5章 役員

第8条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 会計監査 3名
- (4) 総務部長 1名
- (5) 総務副部長 若干名
- (6) 会計部長 1名
- (7) 会計副部長 若干名
- (8) 文化部長 1名
- (9) 文化副部長 若干名
- (10) 幹事長 各期毎1名

第9条 会長、副会長は、総会において会員の中から選出する。

- 2 会長は、本会を代表し、会務を統理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。

第10条 第8条の役員のほか、各期各組から1名ずつ幹事を選出し、各期ごとに幹事長1名及び副幹事長2名を推薦し、会長はこれを委嘱する。ただし、定時制にあっては幹事長のみとすることが出来る。

- 2 幹事長は、同期を代表し、かつ統括する。
- 3 副幹事長は、幹事長を補佐し、幹事長事故あるときはこれを代理する。
- 4 幹事は、各組の取りまとめにあたる。

第11条 会計監査は、総会において会員のなかから選出する。ただし、再選を妨げない。

第12条 会計監査は、本会の経理を監査する。各役員の任期は、2年とする。ただし、任期満了後でも後任者が決定するまでは、引き続きその任にあたるものとする。

第13条 総会は、定例総会及び臨時総会とし、議決は出席者の過半数をもってし、賛否同数のときは議長これを決す。

- 2 定例総会の開催時期は、前年度の定例総会において決定する。
- 3 定例総会の運営は、各期毎の当番でこれにあたる。
- 4 臨時総会は、会長が必要と認めたときに、役員会の決定をもって会長がこれを招集する。

第14条 総会は、次のことを審議する。

- (1) 会務の報告
- (2) 決算の承認
- (3) 規約の改正
- (4) 役員を選出
- (5) その他必要な事項

●第7章 役員会及び幹事長会

第15条 本会の役員会は、会長、副会長、総務部、文化部及び会計部の部長、副部長をもって構成し、会長がこれを招集する。

- 2 本会の幹事長会は、会長、副会長、総務部、文化部及び会計部の部長、副部長及び幹事長をもって構成し、会長がこれを招集する。

第16条 役員会の議決は、出席者の過半数をもってし、賛否同数のときは、議長がこれを決する。

第17条 会員は、役員会に出席して意見を述べることが出来る。

第18条 本会には、次の部会を置き会務を分担する。

- (1) 総務部
- ア 総会及び役員会に関すること。
- イ 規約の改廃に関すること。
- ウ 本会の渉外事務に関すること。
- エ 支部の結成及び支部との連絡調整に関すること。

オ その他庶務一般に関すること。

- (2) 会計部
- ア 本会の会計に関すること。

- (3) 文化部

ア 会誌及び会員名簿の発行に関すること。

イ 会員の親睦を図り、文化厚生活動に関すること。

- 2 部会には、部長1名、副部長若干名、委員若干名を置く。
- 3 前項の部長、副部長及び委員は、会長がこれを委嘱する。

●第8章 会計

第19条 本会の経費は、入会金二、〇〇〇円、終身会費三、〇〇〇円及び寄付金をもってあてる。

第20条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり、翌年の3月31日をもって終わる。

●第9章 事務局

第21条 事務局は、若干名の事務員を置き、本会の事務を処理する。

- 2 事務局員は、会長がこれを委嘱する。

●第10章 規約の改正

第22条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。

- 第19条 S 50 9 6改正
- 第19条 S 53 9 2改正
- 第19条 S 57 8 4改正
- 第13条2項 S 58 8 13改正
- 第19条 S 63 8 7改正
- 第19条 H 2 8 11改正
- 第4条・第8条・第10条・第11条 H 4 8 8改正
- 第15条・第17条・第18条・第20条 H 7 8 12改正
- 第5条4項 H 9 8 9改正

札幌 東京 岩手から……

想定外への対応



旭川北高札幌同窓会事務局長
吉野 伸一
(北高18期)

先の東日本大震災でお亡くなりになった方々に謹んでお悔やみ申し上げますと共に、被害をお受けになった方々には衷心よりお見舞い申し上げます。

この大震災により、自然の驚異を目の当たりにして、改めて自然に対し畏敬の念を抱くと共にこれまで構築してきた社会資本整備のあり方を見直す契機になるのではないかと思います。

報道の中で、想定外という言葉が繰り返し述べられておりました。土木技術者の一人として、多くの鉄道構造物の設計に携わって参りましたが、想定外の事象にも対処することが肝要であると改めて考えています。住宅でも橋梁でも何かの設備、構造物を構築する際にはその耐用期間中に想定される状態に対して安全に・経済的に・環境への配慮も忘れることなく設計することが要求されます。大部分はそれで全く問題は生じない

のですが、忘れてならないことは人の知識には限りがあるということですから。想定外のことが発生しても、人命を守る、取り返しのつかない状態とはならないような配慮が必要だと思います。これは計算では決められないことですが、当初の全体計画、構造計画、そして設計では想定しない破壊状況をも想定し、それに対する対策を施しておくことが肝要でしょう。それが、技術者としての責任だと考えています。

旭川北高札幌同窓会は、昭和57年に先輩有志により開催が始まりました。記念すべき第1回総会の参加者は一〇七名とのこと。近年の総会には、東京あるいは仙台等からも同窓生が駆けつけ、昨年は二〇四名の参加者が一時高校生に戻り楽しい時間を過ごしました。参加者の高齢化(どこの組織でもいわれる言葉です)、若年参加者(といっても50歳未満)が少ないことが課題です。今年、旭川北高札幌同窓会30回記念の総会を、10月28日、札幌ガーデンプレス(中央区北1ー西6:昨年と異なります)で開催する予定です。多くの同窓生の参加を歓迎致します。

なお、想定外の多数参加にも対応致します。念のため。

母校との絆



旭川北高校東京同窓会会長
丹保 冬司夫
(北高13期)

さて、何を書いていいやらと思案していた6月初旬に旭川から1通の封書着信。サッカー部OB会からであり、後輩たちが20数年ぶりにシールド校を破り、大本命の旭実校と共に全道大会出場を決めたとの朗報と、創部60周年記念誌が同封されていた。記念誌を捲りながら、頭の中には半世紀前の若き自分の姿が蘇っていた。忠霊塔前のでこぼこグラウンドで汗と涙を流し、汗臭い理科室で寝食した夏合宿の思い出等々。サッカー部と云うだけで不良だと決めつけられた先生(特に防虫剤の渾名のF先生)がいた時代から思うと、現在のサッカー全盛には隔世の感があり。又、例年6月末になると新聞の片隅に高校野球の地方大会欄に旭川北の文字を探す自分がいるが、これが母校愛なのか。

皆さん卒業後校歌を歌ったことがありますか。音楽が苦手な小生は、在学時代ほとんど口パクだったと記憶している。時が流れ約半世紀たった現在、無意識に校歌を口ずさんでいる事がある。近年、母校絡みの会合で酔った勢いで、締め校歌斉唱が多いせい。先日も、東京同窓会幹事会時に、(27名、3期〜23期)新橋駅前居酒屋で。昨年10月には、東京・旭川合同の13期65歳の東北修学旅行時に。この旅行には35名参加し、旭川組を、一般被災した仙台空港にて出迎え2泊3日のバスの旅。被災した一部の地区を通過し、岩手の山奥の花巻温泉で学生服・セーラー服ならぬ浴衣をはだけての、校歌・応援歌の合唱。昔この宿に宿泊した宮沢賢治もびっくりした事か。数年前の甲子園での涙の校歌も含め、最近北高校歌の詩の素晴らしさと、メロディに感心してるのは私だけだろうか。

故郷を離れて半世紀、故郷・仲間を繋いでくれる北高の「絆」何て素晴らしいんだろう。

◎第15回・東京同窓会・本年10月15日 3時から飯田橋エドモントホテル

にて。
是非素晴らしい「絆」に触れに来て
ください。

東日本大震災(自然の猛威)



旭川北高校岩手同窓会会長

牛崎 鏡二

(北高6期)

「平成二十三年三月十一日」と云う日は、東北(特に岩手・宮城・福島等)にとっては絶対に忘れることの出来ない歴史上、永久に記録として残って行く「大災害の日」であります。又私個人としても鮮明に脳裏に焼き付いたことです。

過去に於いても、大なり小なりの災害は幾つかあった訳ですが、今回のような「マグニチュード9」と云う「想像を絶する地震」その後の「大津波による三陸海岸都市の壊滅的被害」そして「原発施設の破壊による放射能汚染等」と、その壮絶な



る光景を目の当りにすると人間としては、どうすることも出来ない「自然に対する無力さ」を痛切に感じたことはありませんでした。

その一つとして「宮古市田老地区防潮堤」は、ヨーロッパ諸国からも「絶対安全」と高く評価されていた建造物が、一瞬のうちに消えてしまったことを見るにつけ、人間が造るものには「完全・絶対」と云うことは存在しないのかも知れません。

その後の「災害復興・復旧」が進んで行く中で、年々忘れかけていた、戦中戦後の「向う三軒両隣り」のような、助け合いの精神が「絆」として甦ったことは、未だ未だ、日

本も捨てたものではないものと「一縷の光(のぞみ)」を強く感じ取りました。
今回の大災害に於いて無念にも人生の半ばで亡くなられた方々に対し「御冥福をお祈り」すると共に、被災された多くの地域の方々が一刻も早く「明るく・楽しい生活」に戻られん事を切に念願しているところで

最後に、あの日の大災害発生から早くも五ヶ月程経過しましたが、その間全国各地から「物心両面」に亘り、岩手・宮城・福島等に対し暖かい支援に励まされ着々と復興復旧を一所懸命頑張つて居るところです。で今後共、力強い応援を宜しくお願い致します。





1組



一期一会

芝木 邦夫

平成六年に退職してから十八年目である。視力は怪しくなったが、おむね元気である。

思えば、小生の教員生活の中で例外に属するのが、今当番期を入学式から卒業式まで学級担任として過ごしたことである。理由は単純だ。父親としての私情が無造作に入り込んだのである。愚息と小・中を共に過ごした生徒が幾人もいたからである。大体は、甘えが出るとか何とか称して、一年ないしは二年間の担任であった。

いまだ新文化センターで日本文化論を講じている。今期は、茶道について考えているところである。サブテキストは岡倉天心「茶の本」である。

茶道については門外漢である。しかし、茶が大陸から伝えられて、喫茶が盛んになる、新しい文化のなかで生まれた茶人達の思いと振舞、その源泉としてどんな思想的背景があるのか考察するのも面白いと思った。出会いを大切にしたいと思う。悔いを残したり、後にべとべとした感

じで尾を引くようなのはいただけない。さらっとしているのが何よりである。たとい、日に幾度会おうが、その時を大切にしたいものである。唯一の出会いと覚悟しなくてはならない。

退職してから、いろいろ手を染めてきた。でも、まだ仕上がっていない部分がある。なんとか、恰好だけはつけておきたいと思う。身体が持てばこそその贅沢な願いか。

北高同窓生諸君のますますの発展とこのたび幹旋、運営に当たられた三十五期各位の御健勝と御活躍を心から願うものである。



5組



想い出と近況のあれこれ

武田 克伸

自宅仕事部屋のクローゼットに置いてある段ボール箱のなかから腰をかばいながら、二十数年振りを取り出した卒業アルバム。背に旭川北高とある四冊の中に取りました——若くてとがりにとがっていた三十代前半の私の姿。何とも言えない面映ゆさを感じ、三五期の皆さんの写真を眺めていました。正直に申し上げますと北高に転勤してすぐ持った三二期の皆さんとの思い出が、そしてその後の交際においても強烈な印象がありすぎて、懐旧の情の湧いてくるのにはしばらく時間がかかりました。

三五期の皆さんにとっても一番若い担任でした。好き勝手なことを言い、毒舌をあたりかまわずまき散らしていた数々が浮かんできます。その後三七期、四〇期と担任を持ち、札幌へ転出してから二〇年。昨年春三六年間の高校教師生活を何とか終え、現在は東海大学札幌キャンパスで教職関係科目を担当しています。また週に一日は北海学園大学で国語科教育法を教え、ともに学ぶ日々を送っています。



こうして駄文を連ねてくると徐々に想い出が蘇ってきます。そういうえば皆さん方の多くは、「ひのえうま」ですね。私と十七歳違っても「私が六〇歳の時、皆は四三歳」と話したこと。当時の教頭先生と意見の違いがあった時、三年五組の皆は味方してくれたこと。現代文担当の芝木、平原両先生と実験的な授業に取組んだこと。出張時に出した課題作文をコンクールに応募して学校賞の景品の一つ「オアシスライト」が何のことか送られてくるまで判らなかつたことなど尽きません。

あとは同窓会当日のためにとっておきましょう。

6組



『楽しかった教員生活』

河野 功

旭川市立神楽小学校が、教員としての最初のスタートでした。以来、美瑛中、上富良野高、そして旭川北高へ、14年間お世話になり、更に旭川農業高で10年勤め、退職後8年が過ぎ、スローライフを取り入れながら毎日を楽しんでおります。省みれば、旭北高に赴任した時には、千二百名の生徒と百名強の職員がおり、集会では体育館がビッシリでした。各学年共10クラスでしたので、もう人と人って感じがしたものです。担任を受けるたびに学級通信を日刊で発行し、クラスのご報告で名前をつけた事を思い出します。生徒には不人気でしたが、学期毎に冊子にまとめ一人ひとりに配布し、パラパラとめくってくれた時には、うれしさがこみあげてきました。

では、久し振りに全国選手を出せたものの、全国上位をめざしすぎ、アキレス腱断裂を招いてしまい申し訳ないやら悔しい思いやらも体験しました。冬のスキー授業では、北高のゼッケンがより目立つ程しつかりやつたものです。リフト待ちの長い列がブームの証でした。少しでもすいているリフトをさがしたものです。どれもがとも思いい出深く、今の自分を作ってくれたものと思います。旭川農高でもこれらを生かし、楽しく思い切った授業が出来た事に充実感がありました。こうして丈夫な体に生んでくれた両親と、教員生活を支えてくれた家族、そして一緒に授業を盛り上げてくれた生徒諸君に深く感謝します。ほんとうにありがとうございます。のんびりと草花や高山植物の世話をしながら楽しく暮している事を報告しながら、旭北高の発展を祈念し、感謝感謝！

7組



72歳 やっぱり部活漬け

土田 紘一

皆さんは熱中仕事人世代、羨ましい限りです。私の40代は部活漬けが高じてきた頃。「過去の生徒会誌を調べたけど男子山岳部には全道大会

に出場の記録が全く無い、俺たちが連れてってやるから」とのM君の甘言に乗せられ、毎週山に連れて行くはめになったのが始まり。それがネパール3回、日本アルプス27山、この五月の九重・祖母・阿蘇山、そして当総会をサボッテは北アルプスに出かけている始末。これ部活漬けその一。

理科実験研究（理研）部の活動も続いています。薬品器具がなくとも生物生態系なら実験研究は可能。春光台公園水芭蕉群生地で、小学生5名と「ササは水芭蕉の敵なのか？」の研究を3年計画で今夏から始めます。小学生の自由研究のお手伝いをしながら、仲間4人で進めている共同研究論文の補足データにも転用のつもり。これが部活漬けその二。

しかし、一番時間を割いているのはこの二つではなく本を読むこと。700万年の人類史のなかで、地

球環境資源の限界が初めて突きつけられたのが今という時、読みたい本はいっぱいあります。

「無から有は生じない」「覆水盆に還らず」と環境資源の限界を示すのが熱力学です。その復習にふた月次に、初めての経済学の勉強に半年。始祖アダム・スミスの「競争善玉市場主義」は、資源は植民地から、環境汚染お構いなしの時代、つまり資源環境はタダを前提にした理論。あとはボタンの掛け違いの連鎖。「無から有を生み出す」奇術まがいの金融派生商品理論にノーベル経済学賞ですから驚き。理論が破綻しては全てがハタン。

日本と北欧のエネルギー政策の違いは国策として与えられたものか、市民が選択したものかと対極。皆さん熱中仕事人世代が、聡明な世論形成の中核となられ、明るい未来への先導役を担われることを願っております。

8組



私の近況

梶田 昭一

第三十五期生の皆さんは教員生活最後の卒業担任であり、特に印象深いものがあります。

手元に「絆」があり改めて見直しています。三年時はクラス替えもなく、お互いに気心が知れ、様々な行事、活動に意気投合し、取り組んだ様子が懐かしく蘇ってきます。あれから二十六年、皆さんは社会の中堅として、各持ち場において大いに活躍のことでしょう。

さて、近況ですが、私にとつて幾つかの節目がありました。昨年、定年後の仕事を終えたのもその一つですが、仕事を終えたなら、沖繩に旅してみたいと思っていました。太平洋戦争で戦死した叔父の慰霊です。昨年十月に出かけました。叔父の遺骨は還らず、戦死した場所も明確ではないのですが、軍司令部の置かれた首里城を巡る攻防は激戦で、この戦いで戦死したようです。首里城から最期の場所と思いき辺りを遠望し、思いを馳せ、北海道の「北霊碑」前で、異郷に眠る叔父、多くの戦没者の御霊に合掌し念願を果しました。

溪流釣りは趣味の一つですが、昨年の最初の釣りで、迷惑を掛けない所に駐車しようとして、車が路肩を外れ、人様に助けて頂きました。大事に至らなかつたことや体力の衰えを自覚したことで、溪流釣りに終止符を打ちました。

この先、こうした節目をいくつか数えてその時を迎えるものと思っております。

今、社会的な問題の中には、要因の一つとして、人間関係の希薄さが指摘されています。同窓会を機に、一層「絆」を強くされますように願っています。

昨年は明るいニュースもありましたが、政治の混乱、長引く不況、異常気象等様々な事象・事態が発生し気の重い年でした。新年に期待しましたが、三月には人類史上に残る天災・人災が発生し衝撃でした。一日も早い復旧・復興を願いつつ、この巡り合せを確と受け止め余生を送りたいと思う日々です。

皆様のますますのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

9組



退職後の動向

荒井 満

このたびの第四十六回旭川北高校同窓会の開催に際しましては、三十五期卒業生幹事の皆様方、本当に御苦勞様でした。

私が、天塩高校、妹背牛商業高校を経て旭川北高校に赴任したのは、今からちょうど三十年も前のこととなります。その年に誕生した次男が時の巡り合わせで今年結婚することになりました。そのことも含めて、十二年間の北高在職中における思い出の数々は筆紙に尽せないほどです。しかし、その旭川北高校も五年前、私にとつては思い出深い英語科が普通科に学科転換し、姿を消したことに ついては一抹の寂しさも覚えますが、単位制普通科高校として新たなスタートを切った姿に、心を込めてエールを送りたいと思います。

さて、旭川北高校を後にして、最後の赴任校、北広島西高校では、退職までの長き十四年間を過ごし、その後、三年間の再任用勤務で、石狩翔陽高校、札幌東商業高校、札幌平岡高校を転々とし、まるで逗留生活を送っているかの様でしたが、その

後、つまり、昨年のことですが、最初の再任用高校である石狩翔陽高校から時間講師を依頼され、無事その勤めを果たし、今年になって完全に教壇から離れ、やっとオールフリーの身となりました。

五月になって、前期高齢者のレツテルを貼られるというダメージもありましたが、めげず、今は健康を第一に考え、以前から週に三度位やっていたウォーキングを、殆ど毎日、7 km 前後の距離でこなしています。若い頃はよく酒を飲んだもので、もしかするとアルコール症状に陥っているのではないかと思つたこともありましたが、現在は、健康的な、歩こうホリック状態にはまっていますというところ です。

何れにしても、現職中温めておいた様々な思いを実現させることが出来るようにと、今は、心身の活力維持に努める毎日です。





写真で振り返る 北高祭の今昔!!

伝統の北高祭（学校祭）の今と昔を写真で振り返り、
自分達の青春時代を懐かしんでください。

一九五五年
（第五期）



演劇風景



食事風景



吹奏楽・演奏



演劇風景

一九六一年
（第一二期）

一九七〇年
（第二〇期）



仮装行列



作品展示



伝統のフォークダンス



アトラクション つりぼり？

一九七五年
（第二五期）

一九八〇年
(第三〇期)



露店の風景



演劇風景



路上パフォーマンス



クラス展示

一九八五年
(第三五期)



伝統のキャンプファイヤー

一九九〇年
(第四〇期)



露店の風景

一九九五年
(第四五期)



教室ライブ



第58回 北高祭 2011

青春なう。@北高祭
～あなたもリプライ・フォローしてみませんか～

7月8日(金) 前夜祭
9日(土) 一般公開 2日間共通
9:00-10:20 1年生 合唱
10:30-12:00 2年生 演劇
12:30-13:30 吹奏楽部 演奏
13:00-15:00 2年生 演劇

10日(日) 一般公開
9:00-11:00 2年生 演劇
11:00-13:30 音楽部 演奏
12:30-13:00 4年生 よさこい
13:00-14:30 演劇部 公演

露店
8年生・定例行事部
文化系部 部長
部活動部、部員
書道部、書道
文芸部、理科実験部

北海道旭川北高等学校 北高祭実行委員会
旭川市花坂町3丁目 016651-4620



今年も7月8・9・10日の3日間にわたり、行われました。そのうち9・10日の2日間、駐車場や駐輪場を利用して、クラスや部活動等による露店が数多く出店されました。合唱や演劇コンクールも行われ、大いに盛り上がっていました。



同窓会も毎年出店しています。露店の売り上げは、同窓会から北高に贈呈され、教育活動のために活用されています。
同窓会会員の皆様には、ぜひ、来年度の北高祭にご来場いただき、御協力いただくととてもうれしいです。

当番期もお手伝いをしています。



第35期の仲間は今

里村 聡
(さとむら さとし)

第60回自動車技術会賞
「技術開発賞」受賞



富士重工業(株)

北高そして浪人（フリーター時代）時代のこと

里村 聡 氏のプロフィール

1985年 旭川北高校卒業
1987年 東京農工大学
機械システム工学科入学
1992年 富士重工業（株）入社
スバル技術本部トランスミッション設計部でオートマチックトランスミッションの設計業務を経て、現在は同電子技術部にてCVT（Continuously Variable Transmission）の制御開発に従事している。
2010年 第60回自動車技術会賞
「技術開発賞」受賞
東京都調布市在住

バイクと、バイトと、バンドと、KHK（北高放送局）で超リア充の毎日でした。なんだか教室にいた時間より、放送室にいた時間のほうが全然多かったような気がします。2、3年のクラスは理系だったこともあり、事実上の男クラで、それだけに変にまとまって、劣等生も優等生もみんなしてバカやってました。でも、楽しい時間はあっという間に過ぎ、卒業の時、気が付けば、みんなは進路が決まっていて、ちょっと寂しくなりました。だって俺、何にも決まっていなかったし…。

結局、卒業後は2年間、旭川で浪人という名のフリーターをしていました。自分的には大好きな音楽も封印し、まじめにやっていたんですが結果は出ず、ズルズルと1年が過ぎ、そして2年、奇跡的に東京の大学に引っ掛かり上京しました。

大学時代

東京農工大学機械システム工学科に入学しました。とは言っても始めたことは浪人時代に旭川で仲良くなった音楽仲間とのバンド活動。バイトで稼いだお金をすべてバンド活動やライブのチケット代につぎ込んでいました。本気でバンドで食べていこうなんて考えたこともあったんですが、バブルに陰りが見え始めるのと時を同じくして、次なる興味はクルマへ。大学の研究室で、地味にオートマチックトランスミッション用クラッチの研究をやりながら、将来の自動車の開発者という夢が具体化してきたのです。



そしてスバルの日々



92年、日産自動車を経て、スバルでおなじみの富士重工業（株）に入社しました。憧れの自動車開発の世界です！しかし現実には甘くなく、現場は思っていた以上に過酷な世界。私が入ったところは2代目レガシイの開発の佳境で、毎日が寮と職場の往復。週末のドライブだけが楽しみの毎日がしばらく続きました。もう暗黒の日々です。

しかし、売れたのです。そのレガシイが。開発者にとっての何よりのご褒美は、市場の反応であり、販売台数なんです。これで何とかモチベーションを保ちながら切磋琢磨し、いつのまにやら部下も増え、気が付いたら、もう入社して20年近くが経っていました。

その後もなぜか干されることもなく、このところは毎年冬場になると、寒冷地試験のため美深町のテストコースに滞在したりもし、引き続きレガシイやインプレッサなど自動車開発の最前線で頑張っています。

最後に北海道のこと

学生時代以降恒例だった夏休みのバイクツーリングは、このところずっとご無沙汰。でも、盆と正月は家族で必ず旭川に帰ってきます。だって、北海道も旭川も大好きだし。これからはずっと。。。。。。



ジャズシンガー 和島 京都

(わじま きょうと)
第35期

高校時代

野球部のマネージャーをしていたので、とにかくシーズン中は野球一色!!という生活でした。2年生の時は北北海道大会の決勝まで進み、延長15回の末に負けてしまい、“あと1点で甲子園!”だったことが高校生活の中で一番心に残っている思い出です。

そして、野球部の監督を務めてくださっていた故 黒川利男先生との出会いも絶対に忘れられない思い出の一つです。練習では大変厳しく、マネージャーとえいども、もたもたしていると“愛の怒声”が飛んできたものですが、練習を離れた時には、“どんなに家庭を大切にしているか”を話してくださったり、“女はこうでなくちゃいけない”理論を語ったり、特定の野球部員の名前を出して“ああいう男と結婚しろよ”と独自の幸福論を話されたり・・・(笑)
高校生の頃はあまりピンと来ませんでした。今となっては本当に頷けることばかりで、常に心の片隅に置いています。

和島京都さんのプロフィール

- S60 旭川北高校卒業
東京医業専門学校卒業後
日本リック(株)、(財)鎮目記念クリ
ニック、(株)パソナ等で勤務
- H8 アメリカ カリフォルニア州
パサディナシティカレッジ音楽科
入学
- H11 同大卒業
- H13 ヤマハミュージックセンタート
レンス校入社
音楽講師として勤務
- H15 帰国後、ジャズボーカリストとし
てライブ活動開始 現在に至る
- H21 アクタースタジオ入社
ボーカル講師として勤務
現在に至る

ジャズとの出会い

東京で就職し仕事をしていた頃、何となく購入した「ケイコとまなぶ」という雑誌でジャズボーカルを習える所があると知り、何となく習いに行ってみました。小さい頃からエレクトーンを習っていたこともあり音楽は好きでしたが、ジャズは全くの初心者。本当に一から教わってやっと何曲か発表会で歌えるようになると完全にハマっている自分に気がつき、“もっともっとジャズや英語の勉強をしたい”と思うようになりました。そして、アメリカへ留学しようと決めました。

アメリカ留学時代

当初、アメリカでは2～3年勉強したら帰国する予定でした。午前中は英語学校へ行き、午後はジャズの勉強というパターンでしたが、英語学校の同じクラスの友人達の多くがカレッジへの進学を目指していたことと、近くにあったカレッジの音楽のクラスが充実していたこともあり、全く予定していなかったカレッジへの進学という目標を持ちました。そして、渡米から2年半後にPasadena City College という公立のCommunity Collegeへ入学しました。そこで音楽の勉強は大変中身の濃いものとなり、少しずつ演奏の機会なども増え、日本ではあまり経験のできないビックバンドにも所属できました。この頃は、“日本に帰りたくないなあー”という気持ちの方が強かったです。



アメリカ社会

カレッジ卒業後は、現地のヤマハミュージックスクールに就職しました。このスクールは95%がアメリカ人の生徒だったので、音楽も英語も両方活かせる大変良い環境となりました。しかし、同じ職場の講師達と共通理解を図ることや生徒の親からのクレームに対して英語で説得すること等、それなりに苦労も伴いました。

そして、音楽活動については、仕事を請ける時の交渉術（特にギャラについて）を身につけることが大変でした。日本では、お金のことをはっきり聞くのはタブーな風潮がありますが、アメリカでは例えギャラのことでも疑問点はどんどん質問してお互いが納得できる話し合いを持つことが必要になります。それが、いかにこちらが真剣にこの仕事に取り組もうとしているかを証明することでもあり、信頼を得ることにもつながるのです。

このような、アメリカ社会に出てからの経験の積み重ねで、“ボーカリストとして歌うこと”と“英語を話すこと”という2つの点において、初めて本当の意味で学ぶことができたと思います。

これからの目標や夢は



8年半のアメリカ生活の後、旭川に戻ってきました。外から日本を見直した時、日本語の美しさ、伝統文化の素晴らしさ等ずっと後生に伝え、大切にしていきたいものがあると改めて思いました。また、私は現在、スタジオや自宅で歌を教える仕事もしていますが、旭川は音楽人口が少ないと感じます。歌や音楽のすばらしさを多くの人に知ってもらうために、音楽活動ができる場所や機会がもっともっと増えるといいと思うし、それを実現させていくことがこれからの目標であり夢です。

後輩に伝えたいメッセージは

外から見ると旭川は本当にいい人が多いと思うし、帰ってくるとほっとします。そんな旭川気質？のいいところをずっと持ち続け、その上で世の中に羽ばたける術も身につけていってほしいと思います。そして、それぞれの世界で活躍してくれることを願っています。

夢に向かって…

認知の病気に迫る！

いまだ認知の低い病気に迫る

今すぐCHECK!!!!

あなたに潜んでいるかもしれない病気を4つの質問で見つけよう

- 過去に身体に強い衝撃を受けたことがある YES NO
- 頻りに頭痛や倦怠感に悩まされる YES NO
- 頭痛などの症状は、横になると楽になる YES NO
- 気が悪くなると、頭痛が悪化する YES NO

結果CHECK!!

YESが0個のあなたは、今は問題なくても将来何があるかはわかりません → ぜい次のページへ

YESが1個のあなたは注意 → 次のページへ

YESが2個のあなたは危険 → 次のページへ

YESが3個のあなたはかなり危険 → 次のページへ

YESが4個のあなたは脳脊髄液減少症に

あなたや周囲の人に先ほどのCHECKが当てはまる場合は、

「脳脊髄液減少症」の疑いがあります

初めて耳にした病名だと思方も多いのではないのでしょうか？
少しずつ新聞やテレビなどでも取り上げられる様になってきた病気ですが、この病気の怖いところは「知られていないこと」です。
そこで、この機会と一緒に勉強していきましょう！！

脳脊髄液減少症って??

「体への強い衝撃によって脳や脊髄を包む膜(硬膜)が破けることで、内側を流している髄液がそこから漏れ出し、様々な症状を引き起こすもの」と考えられています。



旭川医科大学医学部1年

久保田 圭祐

(くぼた けいすけ)

第59期

脳脊髄液減少症という病気をご存知だろうか。交通事故やスポーツ外傷などが原因で髄液が漏れ、頭痛やめまい、体の痛みなどを引き起こす。この病気を診断する正式なガイドラインはなく、治療も保険適用外だ。二〇〇六年四月、久保田圭祐君は北高に入学し野球部に所属。甲子園をめざし高校生活をスタートさせた。しかし、希望に満ちあふれた高校生活は六月、暗転する。

体育の授業中、頭を強打し、その直後から激しい頭痛に襲われた。そして、頻りに学校を休むようになった。精密検査では異常なし。

各地の病院を訪ね歩いても病名は特定されないまま。心の病や不登校と指摘され、両親とぶつかり、「自分の心の居場所がない」と悩み続ける毎日となった。

転機は二年生が終わる二月に訪れた。同症を患う知人が保険適用を求める署名活動をしていた。同症のチェックリストに照らすと半分以上が当てはまった。そして三年生となった四月、小樽市の専門医に同症を診断され治療が始まった。

症状はなかなか改善されなかったが、病名がはっきりし、治療が始まったことで、圭祐君は前向きな生活を送るようになる。「久保田を甲子園に連れて行こう！」を合言葉に試合に臨む野球部の仲間を応援するた

脳脊髄液減少症と戦う高校球児～医師の道へ～

め、力を振り絞ってスタルヒン球場へ足を運んだ。学校祭では、保険適用を求める署名活動にも自ら取り組んだ。当初、母子二人の予定が野球部父母会も参加し大きな活動となった。本同窓会も会誌に取り上げ、署名を呼びかけた。集まった署名は約二万五千人分となり、北海道知事の手渡し、患者の声を届けることができた。

この病気を経験し、治療を続ける苦悩。そして、野球部の仲間、父母会、同窓会の支援は、圭祐君に新たな目標をもたらした。

「この病気、この痛みを経験し、医者になりたいと強く思うようになった。患者の心に寄り添う医師に！」

治療のため、二年生の後半からほとんど授業を受けられなかった圭祐君。野球部員の励ましを支えに、努力に努力を重ねた二年の浪人生活を経て、今春みごとに旭川医科大学医学部に合格した。現在、症状は落ち着き、医師になるための勉学に励みながら、キャンパスライフを楽しんでいる。

一日も早く、同症のガイドラインが策定され、医療保険も適用となり、多くの同症患者が安心して治療を受けられるようになることを心から願っている。

引用・参考 北海道新聞記事

脳脊髄液減少症を乗り越え

久保田 圭祐

私と同じように苦しんでいるはずの患者の発掘に繋げたいとの思いで、母と共に細々と始めようと思っていた脳脊髄液減少症の署名活動は、旭川北高校野球部父母会の協力によって、大きな動きへと姿を変えました。北高祭や同窓会などで署名活動の場を頂き、沢山の方々が、署名集めに奔走して下さいました。私個人のわがままに似た思いにも関わらず、同級生や後輩、同窓生の皆さんが快く協力して下さいのおかげで、3ヶ月という短い期間で集めた署名は全道で合わせて4万6千名を超えました。集まった署名は、他の患者と共に、北海道知事の高橋はるみ氏に無事提出を致しました。高橋知事は署名によって我々の思いを重く受け止め、全道の教育機関へ周知の為の文書を通達し、厚生労働省に対して研究の促進と医療保険の適用化を求める要望書を提出するなど、早急に行動に移して下さいました。また、署名活動を通して一般にも少しずつ脳脊髄液減少症の存在が知られてきたおかげで、患者の早期発見と早期回復の増加に繋がったようです。本来であれば、かつての私のように絶望の中で自殺以外の選択肢が残されなくなってしまうはずだった患者が、この活動によって辛い治療も行うことなく回復することが出来たと思うと、



皆さんの温かい協力には感謝してもしきれません。医学的な研究が途上であることなどもあって、脳脊髄液減少症における現状は依然苦しいものがありますが、先日、厚生労働省研究班が「髄液漏れの患者が確認できた」とし、今後学会での了承を得ていきたいとする内容がニュースになるなど、一歩ずつではありますが前進に向かっていくようです。署名活動後、より多くの同症の患者を救う手段として、また高校在学中からの夢を実現させるために受験勉強に励み、この度2年間の浪人生活を経て旭川医科大学に入学することができました。運動こそまだ出来ないものの、日常生活レベルでは本当に健康な体を取り戻すことができ、学校生活を送れています。今まで知りえなかった自身の体のことを学ぶことができ、将来患者に還元することに直結することを学べているため、講義は大変な中でも興味深く楽しいです。部活動は北高野球部で過ごした日々を忘れることができません。運動はまだ出来ないのですが、たまに参加してお手伝いをする程度しか今は出来ていませんが、今後更に病状が回復し、6年間の内に運動をしても平気な体になれば、また楽しく野球をプレーしたいと思っています。また、自身の病気の経験や思いを友人や先輩方に話したところ、多くの賛同を得られて、IFMSAという医学生の活動サークルの中で、医学生主体で脳脊髄液減少症のような病気の現状を変えていこうとする新しいプロジェクトを立ち上げて、現在活動することができています。

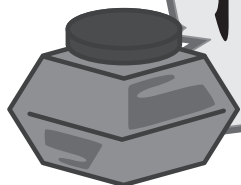
現在では本当に充実した楽しい学生生活を送らせて頂いています。死ぬほどに辛かった日々を、北高の友人たちや先生方に救われて命があり、署名して下さいた多くの同窓生の皆さんに勇気を頂いて今があります。これからも感謝の思いを忘れずに夢に向かって進んでいきたいと思っています。



たくさんのご協力に感謝!

仲間に支えられ高校卒業

同窓生から



- ◆北高12期 杉本宗敏
- ◆北高19期 古川正洋
- ◆北高40期 富樫明樹
- ◆北高55期 齋藤勇介

北高の音楽部



杉本宗敏
(北高12期)

今年北高を卒業してから、50年となり、同窓会に御招待をいただきまして、まことにありがとうございます。私にとつて、この半世紀はアツという間の出来事でした。私達北高12期は、年に1回同期会を旭川で行い、毎年25名前後が集まり、思い出や近況を語り合っています。特に8年前の還暦の同期会では、全国に散らばっている同期の住所・電話等を各クラスごとに調べ、呼びかけ合い、71名が一泊どまりで再会しました。北高時代の話・社会人としての苦労話・近況の話・孫の話等で一晩中盛り上がったことを思い出します。

又、私達の北高時代の印象に残る出来事としては、野球部が初の甲子園出場を決めたことです。当時としては、なかなか甲子園までは応援に行かれない、テレビにかじりついて、声援したものでした。それと、合唱部（音楽部として当時は合唱部があったのだ！）がNHKの全道・全国合唱コンクールに出場し、好成績を納めたことでした。私も合唱部に所属して北高時代を謳歌しました。又、大学時代も引き続きグリーククラブに4年間所属して合唱を楽しんできました。

『還暦』に集う



古川正洋
(北高19期)

した。7年前に定年となり、元北高音楽部の部員が呼びかけ、同期4人（うち男性3名）で、ある合唱団に入団して現在は、モーツアルトのレクイエムやポピュラー曲等を楽しんでいます。これからも80歳位迄は続けたいと思っています。定年後目標を持ち、楽しく趣味を続けられるのも北高音楽部のお陰と感謝しております。

平成七年の北高同窓会幹事の同期会からはや十五年。還暦を迎えたのを契機に、全国に散った悪ガキ？が再会。

開会前から会場のあちこちで「白くなつたな」「気が付かなかった」と互いの顔を見合い、感嘆の声。恩師（片岡・小出・高口）の顔も見られ、「あの頃は」と互いに若気の至りを披露し合う場面も。



冒頭、同期の物故者と東日本大震災の被害者に黙祷。

驚いたことに、同期の中にも被災地で暮らす者がおり、彼の音頭で乾杯（世話人の粋な計らい）。

恩師を含めて八十人ほどが、円卓を囲み、それぞれの人生の軌跡を熱く語り合う姿は、時間を遡り、木造の旧校舎で学ぶ姿と重なるものがあり思わず笑みと歓声の渦が広がる。

親の度々の転勤で大学区制最初の受験を帯広で迎え、三年になる時に北高に編入（再度の高校受験）。修学旅行等の学校行事は終わっており、他の同期生とは共通の思い出は少ないが、学園祭は、当時の北高気質に溢れたハブニングがあり、懐かしく思い出される。同級生の中にはその後、札幌市で市議員を五期勤めている者がおり（現役）、やはり社会参画意識は強かったなと思う。

私は、教育界に身をおき、この春定年退職。同窓の中には教師になる者が多く、『学舎の会』という有志の親睦会が先輩・後輩の絆を強めて



きた。教師になって高校生活を振り返るとき、当時の先生方の心中を慮ると思わず苦笑してしまう。

さて、話を同期会に戻すと、会の終わりに、高校生活の一端を思い出し、懐かしのフォークダンス。

還暦を迎えた男女が手をつなぎ、一つの大円をつくり、マイムマイムの軽やかな？ステップを踏む姿は、同期会でなくては見られない光景。

校歌斉唱に続き、宴の結びで東京から来られた同期生が、出来れば十年後といわず、五年後に集まり、温泉にでも入って同期会を行いたいとのスピーチ。ますます意気軒昂！

東日本大震災に寄せて



富 樫 明 樹
(北高40期)

このたび「同窓会だより」に原稿を書かせていただくことになり、高校卒業から思い返してみると、はや二十一年余りを数え年齢も四十代に達していることに、時の経過の速さを改めて思い知らされました。

卒業後、私は縁あって現在、旭川赤十字病院の事務職をしております。ここで赤十字について一言説明させていただきますと、日本赤十字社の事業の特徴のひとつに災害救護活動というものがあります。これは地震や台

風などの自然災害や、事故等の交通災害などが発生すると、被災者の救護のため直ちに医療救護班を被災地に派遣し災害救護活動にあたるというものです。平成二十三年三月十一日に発生しました東日本大震災に対して、当日のうちに救護活動の準備が開始され、翌日には旭川赤十字病院より救護班の出動がありました。

もちろん今回のような甚大な災害においては救護活動の長期化は必至で、日本全国の赤十字施設から数多くの救護班が被災地に赴き交代で活動を行いました。そしてその一員として自分も震災より二ヶ月程が過ぎた五月中旬に、被害の大きかった地域のひとつである陸前高田市での活動を行ってきました。場所は陸前高田市立第一中学校の救護所で、そこには五百人弱の被災者の方が避難生活をしており、その方たちへの医療救護が目的です。

自分としては被災地への出勤は入社して以来初めてのことで、自分になが出来るのか不安にかられた日々でした。実際に現地は二ヶ月近く経っていても、未だ復興の気配は感じられず、市内は見渡しても一面手付かずの廃墟の様相を呈し、同行した救護班の全員が息を呑み言葉も発せられないような状態でした。短い救護活動期間ではありましたが、それでもあの被災地を思い返すにつれ、故郷とは、生まれ育った土地とは、

家族、友人、かけがえのない人たちとは、と心に強く問いかけてきます。被災者の方々へは一刻も早い復興をお祈りいたします。

人間、やればできるもんだ。



齋 藤 勇 介
(北高55期)

高校時代：私は一体どんな生活を送っていたのだろうか。このような機会をいただき改めて振り返ってみると、これといって「輝かしい」というわけでもない、むしろその逆を行くような学生だったように思う。それを象徴するような記憶：3年生の秋、職員室に呼ばれて説教された事は今でも記憶に鮮明に残っている。高校時代は吹奏楽部に所属しており、「部活が忙しい」という言い訳を盾にしまつたと言っているほど勉強などしてこなかった。私自身も「3年生で部活を引退したらきつと受験に向けてやるだろう」くらいに楽観視しており、それまでの模試の点数も決して高められたものではなかった。ついに3年生の8月、定期演奏会をもって吹奏楽部を引退。

さあこれからは受験に向けて：となるわけもなかった。2年半で身体に染み付いてしまった悪い習慣が、その程度のきっかけで変わるわけもな

いことにこの時気がついた。そのまま2ヶ月。ついに担任の油屋先生からきつい一言を頂いてしまった。「お前、どこの大学に行くつもりだ？このままじゃどこも行けないぞ。」昼下がりの職員室で、ただ淡々と怒られた。怒鳴られるよりよっぽど怖かった。いや、その恐怖はむしろ私と油屋先生が私を案じて放ったその一言に、自分自身の先行きの不安定さに気付いてしまったことから生み出されたものだったのかもしれない。今までに感じたことのない言い知れぬ恐怖感を感じた私はその日から、朝早く起きて勉強、学校では昼飯を食べながらも勉強、帰ってから夜遅くまで勉強。とにかく勉強漬けの、今までは180違う人間になったかのような毎日を経過していった。おかげさまで無事大学にも合格し、今に至っている。

あれから7年。あの時ほど必死になつて勉強したことは後にも先にもあれつきりだ。そして、最後の最後で追い込んだこの方法がいいのか悪いのかは私にもわからない。いや、きつと決して良くはないだろう。しかしながらあの7年前の経験は、私の中である言葉とともに残り続けている。

「人間、やればできるもんだ！」

今春の進路指導部

進路指導部(全日制)

新沼 克志

平成二十二年度の卒業生は、単位制導入後、三回目の卒業生になりました。

この学年は、一年生のときから、柳本学年主任を中心に、計画的に学習指導、進路指導に取り組み、安定した高い実力を発揮してきました。しかし、本校の過年度生と比較するとかなり好結果となっていたのですが、道内の進学校と比較すると、例年とほぼ同じ位置という結果でした。道内の平成二十二年生も、例年よりも高い実力をもっていたということになるのかもしれませんが。

今春のセンター試験の平均点は、昨年よりもやや上昇し、比較的志望校を決めやすい状況になりました。

本校の最終的な大学入試の結果は、九十

八名が国公立大学の現役合格を果たし、1クラスあたり十六名合格という高い合格率を維持しました。また、昨年度に引き続き、難関大学に果敢に挑戦し、一橋大学経済学部、旭川医科大学医学部医学科の超難関大学にそれぞれ一名が現役合格した他、東北大学理系学部三名、そして難関の筑波大学社会国際学群国際総合学類にも一名が合格しました。北大でも、法学部に三名、歯学部にも一名と好結果を残しました。私立大学でも、よくがんばりました。久々に、慶應義塾大学に現役合格したのははじめ、国際基督教大学、青山学院大学、明治大学、中央大学、立教大学、政法大学、同志社大学など本州の難関大に多数合格しました。下に十年前と比較した表を示しましたが、単位制になって、現役の国公立大学合格者が確実に増加しているのがわかります。さらに、その内容も、より難関な大学へ現役で合格していくという傾向が強まっています。

【私立大現役合格者数】

大学名	H19	H20	H21	H22
北星学園大	25	19	8	7
北海学園大	36	14	26	36
北海道文教大	8	5	6	12
札幌大	4	1	4	1
札幌学院大	6	4	3	2
天使大	5	4	3	5
北海道医療大	8	11	8	7
北海道薬科大	5	1		2
藤女子大	2	1	6	11
酪農学園大	4	4	1	2
日赤看護大	1		6	1
早稲田大	3			
慶應義塾大				2
青山学院大	1	2	1	5
明治大		8	2	4
中央大	2	3	5	8
立央大	2	4	1	1
法政大		9	7	3
国際基督教大	1		1	1
学習院大	1		1	1
東京農大	3	2	2	
津田塾大	1	2		1
獨協大	3	4	1	1
日本大	1	3	2	3
同志社大	1	2		1
立命館大	3	2	1	
その他	58	65	52	54
私立大合計	188	174	149	171

【国公立大学現役合格者数】

大学名	H19	H20	H21	H22
北海道大	12	22	14	15
北海道教育大	26	18	20	25
室蘭工業大	1	1	5	4
小樽商科大	6	9	4	7
帯広畜産大	4	3	2	
旭川医科大	6	6	4	2
北見工業大	3	1	1	1
弘前大	12	9	7	5
岩手大	2	5		1
東北大		2		3
山形大	1	3	1	1
茨城大	4	1	1	
筑波大	1	1	1	1
宇都宮大	4	3		1
埼玉大	2	2	4	2
電気通信大		2		1
東京外語大		1		
東京学芸大	1		1	
一橋大			1	1
新潟大	1	1	4	4
金沢大	1	4	1	
信州大	3	3	3	2
京大		1	1	
広島大		2		
琉球大		2	1	
札幌医科大	2	2	1	1
札幌市立大	2	1		3
名寄市立大	5	4	5	1
釧路公立大	5	4	4	3
ほこだて未来大			1	
首都大学東京		1	2	
高崎経済大	5	1	1	4
都留文科大	1	1	2	1
その他	13	10	11	9
国公立大計	123	125	103	98

※旭医大医学科H21(2)、H22(1)

【公務員・民間就職合格者数】

種類	H19	H20	H21	H22
国家公務員	1		2	1
道職	3			3
市町村職員	3	1	2	4
他の公務員	1	4		2
民間就職	4	2	2	1

平成22年度 進路別人数

卒業生の進路

区分	合計			前年			
	男	女	計				
卒業生数	108	134	242	238			
進学希望者数	106	131	237	233			
進学者数	70	116	186	183			
進学先内訳	大	国公立	道内	32	27	59	59
			道外	21	9	30	40
		私立	道内	4	30	34	30
			道外	9	25	34	32
	短大	国公立	道内	0	1	1	0
			道外	0	0	0	0
		私立	道内	0	3	3	3
	道外	0	3	3	1		
	大	大学校等	0	0	0	0	
	就職	専門学校	看護	道内	0	14	14
道外			0	0	0	0	
その他		道内	3	2	5	4	
		道外	1	2	3	3	
公務員	民間	1	2	3	3		
	民間	0	1	1	2		
自営：家事手伝	0	0	0	0			
その他(未定を含む)	37	15	52	50			

国公立大学現役合格者数及び1クラスあたりの平均合格者数

	平成11年度	平成12年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
学級数	8	8	7	6	6	6	6
合格者数	111	101	108	123	125	103	98
人/クラス	13.9	12.6	18.0	20.5	20.8	17.2	16.3

難関大、医学科合格者数(現役)

	平成11年度	平成12年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
北大(文系)	3	4	3	4	9	8	7
北大(医理系)	10	3	12	8	13	6	8
旭医大(医)			1			2	1
東北大		1	1		2		3
筑波大	1	1	1	1	1	1	1
東京外大	1		1		1		
東京工大							
一橋大							1
京大					1	1	
広島大					2		
金沢大	1	2	2	1	4	1	
合計	16	10	21	14	33	20	21

部活動報告

●野球部

私達野球部は、笠井先生をはじめとする先生方のご指導のもと、部員41名、マネージャー2名の43名で毎日元気に練習しています。

野球はもちろん勉強にも全力で取り組み、文武両道を目指し、また、社会に出ても通用するような礼儀やものの考え方を日々学んでいます。

三年生が引退し、新チームとなって迎えた秋季大会では旭川東高校に一步およばず、一回戦敗退という悔しい結果に終わってしまいました。この悔しさをバネに冬の厳しいトレーニングに耐え、迎えた春季大会では留萌千望高校に勝ち一回戦突破することができました。しかし、次の旭川南高校に大敗してしまい、残すは夏季大会のみとなつてしまいました。夏季大会にこの悔しさをぶつけ一つ一つ勝ち進んでいくために、応援してくださる周りの方々への感謝の気持ちをお忘れず、自分を信じ、仲間を信じ、精一杯プレーし、最後まであきらめずに頑張っていきたいと思えます。

●ソフトテニス部

ソフトテニス部の活動について、簡単にご報告させていただきます。市内の他校でも似たような状況があるようですが、中学までやってきたテニスを続ける生徒が減ってきたように思います。今年は残念ながら新入部員を迎えることが出来ませんでした。現在は2年生のみの4名で活動を続けております。かろうじて団体戦にも出場できる

のですが、本来3ペアでの勝負のところ、2ペアしかおらず、最初から不戦の1敗を抱えての不利な対戦とならざるを得ない状況です。厳しいチーム事情ですが、これからも先輩達の伝統を引き継いでがんばりたいと思います。温かく見守って下さい。どうぞよろしくお願ひします。

○高体連地区大会結果

団体戦：予選リーグ敗退
 ×旭川北 1-2 留萌
 ×旭川北 0-3 東川
 個人戦：初戦敗退

●テニス部

テニス部は、男子二十六名、女子十三名で活動しています。花咲テニスコートがすぐ近くにあるという地の利を生かし、毎日練習に励んでいます。テニスは、技術はもちろんのこと、メンタル面での影響が結果に大きく反映してしまうスポーツです。テニスにうち込むことで、メンタル面を強化し、困難に果敢に立ち向かい、逆境にも動じない強い精神を持った人間に成長してもらおうと考え、生徒達を指導しています。現在は、三年生が引退し、新チームとして動き出してまだひと月あまりです。未熟な面が多いですが、八月の夏季大会、九月の新人戦に向け、頑張っています。

●男子バレーボール部

昨年度高体連で10年振りの優勝をはたし、連覇を目指してスタートしました。選手権大会(春高)・新人大会と地区準優勝し、全道大会に出場することができました。全道新人大会では一回戦突破し、二回戦の札幌第一高校との対戦で敗れたものの北高らしい戦いがありました。その後の地区冬季大会では優勝をはたし、チーム力の充実を感じられました。しかし4月に入り、

怪我や故障などにみまわれ、100%のチーム状態になることがなかなかできず、最後の高体連支部大会では、残念ながら決勝トーナメントで敗退してしまいました。この悔しい思いを忘れず、これからも頑張つて活動していきたいと思います。(大会結果)

○バレー祭 優勝

2回戦 旭川北 2-0 旭川東栄
 準決勝 旭川北 2-0 旭川西
 決勝 旭川北 2-0 旭川工業

○旭川支部春季大会 第三位

2回戦 旭川北 2-0 旭川東栄
 準決勝 旭川北 1-2 旭川西
 3位決定戦 旭川北 2-0 旭川実業
 決勝トーナメント 旭川北 2-0 旭川農業

○高体連旭川支部予選会

予選グループ戦 旭川北 2-0 旭川農業
 決勝トーナメント 旭川北 1-2 富良野

●女子バレーボール部

一年生一名、二年生七名、三年生三名、マネージャー二名の計十三名で、全道大会出場を目指して頑張っています。高体連の大会では三年生も、持てる力以上に健闘しましたが、力が及びませんでした。

試合結果ばかりでなく、部活動で得るものはたくさんあります。人間的にも成長できるように今後も頑張っていきたいと思います。

○高体連予選

旭川北 0対2 旭川南
 旭川北 0対2 富良野

●サッカー部

高体連では、悲願の全道大会に出場することができ、勝つことはできませんでしたが貴重な経験を積んで帰ってきました。今大会で得たことを大事にして、さらなる目

標を掲げ、日々の練習に取り組んでいるところでです。

3年生が引退し、新チームとなったサッカー部は、2年生13人、1年生12人、マネージャー4人で毎日元気に活動しています。H23年度

第64回北海道高等学校サッカー選手権大会

旭川予選大会結果
 2回戦 北高 2対0 旭川明成
 3回戦 北高 1対0 旭川工業
 準決勝 北高 0対0 旭川東

(PK 5対4)
 決勝 北高 0対7 旭川実業

第64回北海道高等学校サッカー選手権大会

(小樽市開催)
 1回戦 北高 0対2 函館中部高校

●卓球部

高体連旭川支部大会の結果は、学校対抗男子で準優勝となり全道大会出場となりました。学校対抗女子は決勝リーグに進めませんでした。女子ダブルスで2組、女子シングルスで1名が全道大会出場となりました。

全道大会では男子が北海高校、女子も函館大妻などの強豪選手に敗れましたが、今後につながる戦いがあったと思います。

○高体連旭川支部予選結果

男子学校対抗 決勝リーグ
 旭北0-3旭実 旭北3-0旭東
 旭北3-1旭西

女子ダブルス 菊地・岡崎 5位
 宮坂・椿澤 6位
 女子シングルス 宮坂 5位

●バドミントン部

バドミントン部は男子14名、女子12名の

計26名で活動しています。男女共に仲が良く、どんな辛い練習でも協力し、毎日明るく練習に取り組んでいます。

今年も、仲間や先生の他、多くの方々の応援と支えをいただき、男子団体および個人で高体連全道大会に出場し、男子団体で北海道3位に入賞することができました。今後も、より一層練習に励み、より良い成績を残せるように、そして一番の目標であるインターハイ出場を目指して、みんなで切磋琢磨して日々努力していきたいと思っています。

【おもな大会結果】

高体連支部大会および各種全道大会
○北海道高等学校新人大会
平成23年1月12日～15日 釧路市

男子団体 2回戦敗退
男子複 児玉・金澤 ベスト8

○高体連旭川支部大会
平成23年5月24日～26日 旭川市

男子団体 第2位
女子団体 第3位
男子複 児玉・金澤 第3位

女子複 浅野・長谷川 ベスト8

女子単 大垣・高田 2回戦敗退

男子単 児玉 ベスト8

女子単 高田 ベスト8

○第63回北海道高等学校選手権大会
平成23年6月14日～17日 帯広市

男子団体 北海道 第3位
男子複 児玉・金澤 ベスト8
男子単 児玉 2回戦敗退

●ソフトボール部

私連ソフトボール部は部員のほとんどが

高校から始めた初心者ばかりですが、一番の目標である全道大会出場、打倒旭商を達成するために毎日顧問の先生のご指導のもと練習に取り組んできました。毎週土日になると練習試合を組み、今まで練習してきたことを実践し課題を見つけ、また日々の練習の中で振り返りながら技術を確実に高めていきました。

暑い中での夏の練習、ひたすらバットを振り続け、他にも筋トレや階段での体力づくりをした冬の練習を乗り越えてやってきた高体連。残念ながら全道出場することができませんでしたが、一回の裏に大量に点数を入れ逆転したり、自分たちのリズムをつくったり、あまり練習試合では成功しなかったダブルプレーを決めることができたことなど後悔のない今までが一番良かった試合ができたと思います。また、引退していった三年生の先頭になってチームをひっぱる姿、試合で逆転をされても声をかけて雰囲気盛り上げる姿は私達一・二年生に最後まであきらめない心、ソフトボールのおもしろさを教えてくれました。

これからは新チームとして新たなスタートとなります。ちょうど一チームしか作れない少人数ですが、まずは新人戦、そして来年の高体連に向けて毎日の練習を大切に個人やチームの技術を上げていきます。これからもいつか応援してくれる家族や私達に関わるたくさんの人への感謝を忘れずに、自分たちらしく互いに刺激し合いたいと思います。

○高体連支部大会
北高 7対19 旭川商業

●剣道部

今年の剣道部は「男女団体全道出場」を

目標に支部大会に挑みました。

しかしながら、気迫の欠如・経験不足が試合に出た形となり、男女団体ともに第3位に終わりました。「あと一勝・あと一本」の重さを、つくづく感じる結果となりました。

そのような中、女子個人で平岡が優勝したことは特筆に値します。

今後は一・二年生を中心に、この悔しさを忘れず、日々努力していきたいと思えます。自ら稽古内容を吟味し、行動に移すことが、剣道部員に望まれる一番の課題ですが、引き続きご支援・ご声援のほど、よろしくお願いします。

○高体連旭川支部大会

男子団体 第三位 女子団体 第三位
女子個人 平岡 優勝

○高体連全道大会(室蘭市)
女子個人 平岡 二回戦敗退

●陸上部

今年度の陸上競技部は、総勢36名で活動しています。高体連旭川支部大会においては、多数の優勝、入賞者を出し、学校対抗の総合順位においても男女とも3位と健闘してくれました。更に、先般地元旭川で開催された全道大会において、男子ハンマー投げで北海道高校新記録を樹立、また、男子やり投げでも全国ランキング5位にいたる記録でいずれも優勝、女子400mでも5位入賞と3名の全国大会進出を果たしました。3名とも十分に全国入賞の可能性があり、今後は今後も頑張りたいと思います。

●男子バスケットボール部

私達は、二年生十名、一年生十五名、マネージャー二名で足立先生の指導の下で活動しています。五月に行われた高体連では、

一回戦、第四シードの東栄高校に雪辱を果たし二十三年ぶりのベスト4入りを果たすことができました。新チームは昨年より力が落ちているので、まずは体力作りをしっかりやり、次の代へシードをつなげられるよう頑張っていきたいと思っています。

●女子バスケットボール部

私達はブレイヤーが三年生三名、二年生四名、一年生八名、マネージャーが二年生一名の合計十六名で活動しています。

『心をこめて』の合い言葉の下、「全道出場」を目標に練習に取り組んだ結果、今年度、遂に創部以来初の全道出場を達成しました。

次の目標は「全道出場」です。「全国出場」を目指し、『心をこめて』頑張ります。

平成二十二年度成績

○キシイカップ 一回戦敗退
○高体連秋季大会 一回戦敗退

○選抜旭川予選 第三位

○全道新人旭川予選 第四位

○旭川地区春季大会 第三位

○高体連旭川支部予選 第三位 (全道出場)

●山岳部

山岳部は現在男子5人、女子2人の7人で活動しています。今年の地区大会は参加校が少なかったこともあってか、優勝することができ、全道大会に2年連続で出場することができました。3年生にとってはこの大会が最後の大会となってしまうので、昨年以上に準備に気合いを入れて、万全の状態での全道大会に挑みました。そのかいあってか、全道大会では3位に入賞するという良い結果を残せました。今まで支えて下さった顧問の先生方に

感謝しています。
3年生が引退すると、男子は2人になり、大会に参加できなくなってしまうので、なんとかメンバーをそろえて、3年連続の全道出場を目指してほしいです。

●アーチエリート部

アーチエリート部は三年男子五名・女子一名、二年男子四名・女子二名、一年男子十名の二十二名で活動しています。

六月八日〜十日に高体連全道大会がキロロリゾート森の広場で行われました。女子団体は三年ぶりの参加でした。結果は、男子、女子ともに決勝トーナメントに進出しましたが決勝トーナメントでは初戦に敗退しました。男子の個人戦では、二年の西村悠汰君が準々決勝で敗れましたが五位入賞しました。今年も全国出場にはなりませんでしたが、生徒は最後まで全力を尽くしていました。来年度こそ、全道で優勝し、全道大会に進出することを決意し、現在、練習に励んでいます。

高体連が終了し、二年生が中心の部活動になります。二年の立田典久君を部長に新体制として始動しました。現在、旭川アーチエリート協会の方々に生徒の指導でご尽力をいただいております。

新体制で、まずは九月に行われます秋季大会を目標に取り組んでいます。シングルアウトドアターゲットラウンドですので、1年生にとっては、厳しい大会となりますが、早く、七〇m、九〇mが打てるようにしていきたいと思えます。

●少林寺拳法部

昨年夏の全国大会では、残念ながら予選を通過することは出来ませんでした。北海道の代表として立派な演武を披露することができました。

今年度は一年生8名を加え、男子10名、女子12名の計22名で活動しています。少林寺拳法部を創部した中井先生が今春転出され、技術面などで不安を抱えた中でこのスタートでしたが、六月の高体連全道大会で、男子は二年連続、四回目の総合優勝を果たしました。

また、全国高体連への正式加盟で種目や全国大会出場枠が減った中、男女ともに団体演武で優勝し、全国大会出場権を得ることもできました。全国大会では、予選を上位で通過し、本選でも入賞できるような頑張りです。

○高体連全道大会結果（入賞者）

〈男子〉 総合一位

団体演武
★柴田③・堀井③・吉田③・妻鳥③・原口③・山城①・森①組 一位

組演武
堀井③・柴田③組 五位

吉田③・妻鳥③組 六位

単独演武
原口智成③ 三位

〈女子〉 総合二位

団体演武
★渡邊③・秋生③・高木③・田中③・野口③・齋藤②・紀本②・野村②組 一位

単独演武（段外の部）
高木麻衣③ 五位



野口優夏③ 六位
★は全国大会
(7/29〜30香川県多度津町)へ

●囲碁部

5月19・20日の両日にわたり、函館市で高文連北海道高校囲碁選手権大会が開かれました。

本校からは、3年の中村・森・越智・鈴田と1年の中尾の5名が出場しました。久しぶりに団体戦にもエントリーし、1回戦は突破しましたが、2回戦で函館ラサール高に負けて敗退しました。

個人戦は、中尾と中村がAクラス、森がBクラス、越智と鈴田がCクラスに出場しました。Aクラスに出た1年生の中尾は、優勝した選手と3回戦で当たり惜敗しましたが、順位決定戦で頑張つて5位となりました。この結果、8月に開かれる総文祭囲碁の団体部門に北海道のメンバーとして選出されて、出場することとなりました。また、初心者ながら鈴田がCクラス優勝を飾つたのは、大変立派でした。

3年生はこれで引退となりますが、これまで囲碁部を牽引してくれた努力に敬意を表したいと思います。

●吹奏楽部

吹奏楽部は今春1年生23名を迎え、総勢53名で「聴衆に感動をあたえらるる演奏をしよう」を目標に部員全員が一丸となって精力的に演奏活動を行っております。現在は北高祭や吹奏楽団体コンクール、第36回定期演奏



会に向け毎日練習に励んでいます。平成22年度の活動内容および成績

○高文連上川支部音楽発表大会

吹奏楽コンクール部門 最優秀賞

○第44回全道高文連音楽発表大会

吹奏楽部門 奨励賞

○北海道吹奏楽団体コンクール

旭川地区予選

○高等学校A編成の部 銀賞

○北海道個人・アンサンブルコンクール

旭川地区予選

サキソフオーン四重奏 金賞

打楽器五重奏 銀賞

・第35回定期演奏会主催

・第8回トリニティー・コンサート主催

・開校70周年記念式典記念演奏

・北海道音楽大行進、

アフターコンサート参加

・イオンスプリングコンサート実施

○校内活動

入学式、新入生歓迎会、野球応援、

北高祭、卒業式にて演奏

●美術部

昨年度は、70周年記念ロゴ制作を担当させていただきました。思い出深い活動ができました。

3年生部員四人全員が大学進学を果たしました。

3年生部員四人全員が大学進学を果たしましたが、うち三人が美術・デザインへの進学で、卒業間際まで取組の様子を先輩へ見せてくれたことは、今年の活動の姿勢にとってもよい影響を残しました。

昨年度も高文連大会では、出品者全員が全道大会出場権を獲得することができました。また、例年通り、生徒会誌の表紙も描かせて頂き、上川支部の選抜作品展にも新



作で出品することができました。新入生歓迎行事の紹介ビデオもさらにパワーアップし、CGを使ったコマ撮りアニメーションを含むものを制作し充実させました。

今年度も学校祭の宣伝・装飾などのデザインや制作にも全面的に協力できました。学校祭終了後は、夏休み明けの高文連支部大会への出品物の仕上げです。

今年度の3年生は美術系進学志望ではありませんが、学業と制作を両立させながら高校生活を充実させ人間的な成長を図っています。下級生は秋から冬は、美術史や理論、デッサンや技法研究などの地道な勉強をする予定です。

これからも、日頃の成果を皆さんに喜んで頂ける形に還元できるように、精進したいと思います。

○平成二十二年度の成績

高文連美術展・研究大会

全道優秀作品賞

- 3年 杉本 直樹
- 3年 成田 みくに
- 2年 佐野 恭子
- 全道入選
- 3年 佐藤 麗花
- 3年 吉田 美月
- 1年 峯後 佳奈
- 1年 安達 明希
- 1年 宇草 未咲

●音楽部

部員数30名以上ですが、活動場所が狭いので、活動も思うようにできないのが悩みです。軽音楽部として、主にJポップなどの曲を演奏しています。演奏機会としては学校祭、図書室コンサート、クリスマスコンサートなどです。また学校祭のテーマソングも作っています。学校祭を盛り上げるために一役買っています。

●書道部

今年度は、三年生二名、二年生十二名、一年生四名の計十八名で、日々楽しく熱心に活動しています。現在は学校祭展示の作品を完成させ終え、高文連に向けて臨書・創作の作品制作に取りかかっているところです。一人一人の目標が高いため、連日書道教室にこもり、よい作品をかこうと精力的に取り組んでいます。また、部員同士がとても仲が良かったため書道教室内の会話の声笑いが止まりません。それに加え、互いに助け合い、協力し合うことでよい環境づくり、活動しやすい雰囲気の中で書を書くことができています。

今後も、仲間と助け合い・協力し合うことを忘れず、時には厳しく批評し合うことで高い目標を持ち、よりよい作品に完成させることができるように頑張っていきます。

●演劇部

顧問は、私、中村と新しく芳野修一先生が就いてくれました。心強い限りです。一方、生徒の方は、1年生4人、2年生4人、3年生1人の9名で活動しています。何とか、二桁の部員という夢にかなり接近してきました。演劇は部門がいくつもあるのですが、本当は20名弱が理想なのですが、贅沢は言ってもらえません。どちらにしても現有勢力で何とかしなくてはならないのですから。数年前の部員1名、顧問2名という逆転現象から見ると、ありがたいことではあります。

しかも、今年入部した1年生がかなり行動力があるので、大いに期待しています。一方、3年生はいよいよ受験ですので、今年はその間に集中してもらいます。残った2年生は、顧問の知らない間に成長しているようです。

2月12日(土)に鷹栖メモロディーホール

で行われた「3分間劇場」では、「金のトマト賞」をいただいたのに続いて、6月4日(土)に行われた上川支部合同公演(「生徒総会」)には、中島義雄、稲田絵梨の両名が出演し、すばらしい演技をしてくれました。

今後は、学校祭、高文連支部大会に向けて、鋭意努力していきますので、よろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

●華道部

現在、二年生三名、三年生二名の計五名で毎週水曜日に活動しています。少ない活動ながら、立岩先生のご指導の下、一人一人が着実に上達しています。また、学年問わず仲がよいので、部内の雰囲気もとても良いです。

稽古後は、生けたお花を図書室や廊下に展示して、たくさんの方々にご覧いただき、「きれいですね」とおっしゃっていた、とてもうれしく思うので、これからもさらなる上達を目指し、稽古に励みたいと思います。

学校祭では、稽古の成果を発揮するためいつも以上に団結して、展示を創り上げます。

今年度は、全員で浴衣を着て、華道教室を開催します。

展示をご覧いただきたくことで、日本の美しい文化に触れることができるので、ぜひ来場していただきたいと思っています。

また、インターネット華展にも積極的に出品していこうと思っています。

このように、私たちは、これからも先輩方によって守られてきた旭川北高華道部として日本の華道の精神を守り続け、未来の後輩に伝えていこうと思います。

●茶道部

今年度は、一年生二十五名の入部(今年度は女子が二十四名、男子が一名入部しました)があり、二年生八名、三年生十三名、計四十六名で活動が始まりました。月曜日は技芸講師の立岩先生のご指導のもと、一生懸命お稽古に励んでいます。木曜日は自主練習で、三年生が中心となり基本練習の席入りや帛紗さばき等の割稽古を行っています。また、三年生十三名の他に留学のために日本文化の一つである茶道を学びたいという三年生が一名短期間入部をしており、改めて茶道の文化の深さを感じました。

七月に行われる学校祭は、日頃の活動の成果を披露できる唯一のお茶会です。五月からはそれに向け、完璧なお点前を披露するためにそれぞれが時間をみつけてはお点前の練習に励みます。

三年生は七月で引退し、八月からは二年生が中心となり部活動が行われます。一年生と共に歴史ある北高茶道部の伝統を受け継いでいってほしいです。また、代々茶道部はとも仲が良く周りの人たちから言ってもらえるので、そういう所も受け継がれてほしいと思います。

これからも茶道を通して、礼儀作法や人をもてなす精神を学び、心豊かな人間になれるよう、稽古を積んでいきたいと思いたす。

●インターアクト部

私たちインターアクト部は、旭川北口一タリークラブのご支援の下、様々な活動に取り組んでいます。

インターアクトは、インターナショナルとアクションを組み合わせた造語で、国際的な視野に立ち、ボランティア活動を通して地域社会に貢献することを目的としています。毎週のミーティングで「自分たちが

できること」を部員同士で相談しながら、ボランティア活動に取り組んでいます。活動内容は次の通りです。

①校内の活動
□美化活動

- ・ 校舎内の清掃
- ・ 校舎敷地内のゴミ拾い
- ・ 100万人ゴミ拾いキャンペーン参加
- リサイクル活動
- ・ リングブル・古切手・ペットボトルの回収
- ・ 学校祭でのチャリティバザー開催
- 募金活動
- ・ FNSチャリティ募金活動実施

②地域との関わり

- ・ 旭川冬祭り会場跡地の清掃活動
 - ・ 旭山動物園(障がい者と家族動物園特別鑑賞サポートボランティア)
 - ・ 北高林の植樹活動
- これからも「身近なことからできる」ボランティア活動を中心に取り組んでいきたいと思っています。今後ともどうかよろしくお願ひします。

●文芸部

今年度は四名の先輩を送り出し、一名の新入部員を迎え：という事で、部員数が六名という寂しい状況になってしまいました。

それでも、部誌編集の技術、リレー小説テーマ作品など、活動内容は確実に引き継がれています。写真部とのコラボレーション部誌も、無事第二号が発行できました。また、新二年生の編集による『玉響(たまゆら)』第十二号も、ようやく編集を完了したところです。現在、次のコンクールに向け、執筆中です！

- 高文連上川支部文芸コンクール
- ・ 小説部門 優秀 佐藤優美花

- ↓全道 入選
- ・ 詩部門 佳作 杉本 恭子
- ・ 部誌部門 全道推薦
- ↓全道 金賞

●理科実験研究部

どうも、こんにちは。まずは簡単に部員構成を紹介します。元からいた四人に三年が二人、二年が一人、一年が二人の合計九人となり、当初に比べるとかなりの大家族となりました。このような人数になると、やはり部室もにぎやかになり、放課後は部員以外の人も遊びに来て、人と笑いの絶えない空間になっています。

次に今、行っている活動を紹介します。一年は基礎実験、二、三年生は二・三人のペアになり、今秋の大会に向け研究を重ねております。昨年発表した食品テストの実験を引き継ぐ班、乾燥剤として有名な「シリカゲル」について研究する班など人数が増えた分、研究テーマも増え、班はそれぞれ協力し合いながら楽しく活動しています。先輩がいなくて不便だといいたが、過ぎてきた僕ら三年ももうすぐ引退です。振り返ってみると部室には先代の先輩方が残したたくさんものがあり、それらに助けられていて、決して先輩がいなかったわけではないことを痛感します。限られた時間ではありますが、先輩がいなかったため大変だった思いをできるだけ後輩達にしたいようにたくさんもの思いを残していきたいです。

●放送局

放送局と聞いた人の多くは、行事や校内放送で仕事をする生徒の様子を思い浮かべるだろう。そんな放送局員が「大会」に出るって何？と尋ねられることも少なくない。放送局員が参加する大会には大きく2つ

ある。他の文化系部活動と同様に「高文連大会」があり、地区大会・全道大会は10月、全国大会は「総文祭」と呼ばれ、翌年の8月に行われる。もう一つはNHK杯高校放送コンテストといい、5月に地区大会、6月に全道大会、そして7月に東京で全国大会が行われる。

放送の大会は、各校が制作したテレビ番組。ラジオ番組(ドラマやドキュメント)の発表と、自分で書いた原稿を制限時間以内で読む技術を競うアナウンス、自分で抽出した箇所を制限時間以内で読む技術を競う朗読などを行う。

本校は放送コンテストにおいては道内の有力校の一つである。テレビドキュメント部門で2年連続で日本一(全国トップ3)に入るとテレビやラジオで全国放送される。2年連続で日本一になった学校は全国的にもきわめて稀である。達成したのは8年前のこと。その他、近年ではほとんど毎年のように個人部門(アナウンス・朗読)で全国大会に出場しており(全道からの代表はそれぞれたった12人である)、全国大会でも2回に1回は準決勝(全国トップ60名)で、ここまで進出するとNHKが制作するCDに発表内容が収録される)に進出している。

地区では常勝の本校は、今年も6月22日小樽市で開かれた全道大会に出場した。結果は「アイヌ兵」を扱ったラジオドキュメントが審査員の総合得点でわずか1点及ばず奨励賞、アナウンス部門では3年5組の壺井さんがこれまた僅差で奨励賞と涙を飲んだが、3年5組の土屋さんが見事朗読部門で全国大会への切符を手にした。全国大会は7月26日より東京で行われる。

大震災の影響で、例年ならば準々決勝(300人から60人に絞るステップ)から東京で発表・審査が行われるところを今年は準

決勝(60人から10人に絞るステップ)から大会参加となる(準決勝進出者は事前に非公開審査により決定し、出場校に連絡される)。土屋さんの東京行きを祈りたい。

●写真部

今年は1名の新入部員を迎え、合計9名で日々の写真撮影に動いております。文芸部との合同冊子「共鳴」もまた発行することができ、誰かと共に1つの作品を作る難しさ、そしてそのやりがいを実感しています。部員同士がお互いの写真の影響を受け、新しいものの見方を身につけてきているので、今後の作品に期待が高まります。

●生徒会

北高の生徒会は生徒による主体的な運営を目指しながら様々な活動に取り組んでいます。現在は北高祭そして体育大会に向けて話し合いを重ね準備を進めているところです。

最近では新しい取り組みとして「エコキヤップ運動」などのボランティア活動や年末の「クリスマススイベント」を始めました。さらに、生徒の要望を聞き入れようとする試みから、校内に「目安箱」を設置しました。その結果、昨年は自動販売機に炭酸飲料が導入されるなど新しい動きを見せ始めています。また他校との交流も行い、望ましい生徒会活動について学習する機会を設けました。

伝統ある北高の生徒会活動を一層良いものにするべく、日々頑張っています。今後も様々な場面で同窓会の皆さんのお力を借りる場面があると思いますが、どうかよろしくお願ひします。

同窓会役員及び幹事名

旭川北高 ◆ 同窓会役員名簿 ◆

顧問	稲垣 勇……………中一	赤松 浩恵……………北三〇	幹事名	稲垣 勇……………北二十	林 仁彦……………
顧問	進藤 和行……………中二	末廣 理一……………北二四	中一	幹事長……………	稲垣 勇……………
顧問	山形 積治……………北八	油屋 正……………北二九	中二	幹事長……………	吾妻 充……………
顧問	八重樫和裕……………北一八	●旭川北高札幌同窓会	中三	副幹事長……………	西村 広……………
顧問	川島 崇則……………北一八	会長 中島 尚俊……………北一五	中四	幹事長……………	谷口 孝……………
顧問	大川 勝人……………北一八	事務局長 吉野 伸一……………北一八	中五	副幹事長……………	間 仁一……………
顧問	北塔 光昇……………北一八	●旭川北高東京同窓会	(高二)	幹事長……………	石崎 一夫……………
顧問	浅井由美子……………北一八	顧問 河原 惟臣……………北一〇	中	幹事長……………	工藤 博視……………
顧問	尾崎 信彦……………北二五	会長 丹保冬司夫……………北一三	北一	幹事長……………	伊藤 努……………
顧問	渡邊 久男……………定三	副会長 浜崎 泰子……………北一一	北二	幹事長……………	林 徹男……………
顧問	遠藤 剛……………北一三	幹事長 浦木 勲……………北一三	北三	副幹事長……………	五十嵐 正……………
顧問	中村 悦郎……………北一六	事務局長 上野 敦子……………北一二	北四	幹事長……………	干場 武司……………
顧問	福地 登……………定一一	会計部長 齋藤千鶴子……………北一三	北五	幹事長……………	波岸 順子……………
顧問	庄司 和晴……………北一八	●旭川北高岩手同窓会	北六	幹事長……………	阿部 信行……………
顧問	池田 定博……………北一八	会長 牛崎 鎌二……………北六	北七	幹事長……………	瀨川 哲男……………
顧問	市川 陽一……………北二二	●旭川北高同窓会名寄支部	北八	幹事長……………	西川 紀子……………
顧問	小枝 万美……………北二二	支部長 神藤ツル子……………北五	北九	幹事長……………	鈴木 紀明……………
顧問	市山 力三……………北一七	副支部長 片平 厚……………北一五	北十	幹事長……………	中村 秀雄……………
顧問	大津 文雄……………北一八	幹事長 齋藤真理子……………北一七	北十一	幹事長……………	谷中 則親……………
顧問	富田 公裕……………北二五	事務局長 宮腰 建一……………北一四	北十二	幹事長……………	杉本 宗敏……………
顧問	木村 公俊……………北二五	●旭川北高同窓会宗谷支部	北十三	幹事長……………	栗原 利勝……………
顧問	村上 史生……………北一八	会長 塚越 英明……………北一九	北十四	幹事長……………	小島大二郎……………
顧問	山中いつ子……………北一九	事務局長 小田島富男……………北二〇	北十五	幹事長……………	横山 直史……………
顧問	鈴木 弥生……………北二五	幹事長 坪内 晃……………北二〇	北十六	幹事長……………	廣田 秀美……………
顧問	平間 明鑑……………北二六	安田 最次……………北二一	北十七	幹事長……………	加藤 修……………
顧問	小菅千賀子……………北二九	巽 昭……………北二四	北十八	幹事長……………	大川 勝人……………
顧問			北十九	幹事長……………	鳴海 範子……………

同窓会役員及び幹事名

定十六	幹事長……奥山 寿雄	定四十五	幹事長……		
定十五	幹事長……深谷富美雄	定四十四	幹事長……日野 洋一		
定十四	幹事長……松田 誠	定四十三	幹事長……渡辺加代子		
定十三	幹事長……神藤 茂晴	定四十二	幹事長……岡本 香織		
定十二	幹事長……田村 篤	定四十一	幹事長……菅原臣一郎		
定十一	幹事長……千葉青次郎	定四十	幹事長……遠藤 智康		
定十	幹事長……小林 輝雄	定三十九	幹事長……細田 勝己		
定九	幹事長……小野寺 勤	定三十八	幹事長……早川 立人		
定八	幹事長……窪田 冠治	定三十七	幹事長……大橋 恵子		
定七	幹事長……森下 義治	定三十六	幹事長……浅井 智希		
定六	幹事長……金山 紘一	定三十五	幹事長……西尾 悟		
定五	幹事長……小林 成吏	定三十四	幹事長……新見 稔		
定四	幹事長……谷口 省一	定三十三	幹事長……窪田 竜三		
定三	幹事長……	定三十二	幹事長……篠原 誠		
定二	幹事長……小泉 貢	定三十一	幹事長……上林山健次		
定一	幹事長……山崎 安光	定三十	幹事長……入野 直美		
北六十一	幹事長……	定二十九	幹事長……太田 房枝		
北六十	幹事長……和賀 俊太	定二十八	幹事長……日塔 浩之		
北五十九	幹事長……	定二十七	幹事長……山中 敏行		
北五十八	幹事長……川西 雄太	定二十六	幹事長……中原 泰司	定五十五	幹事長……
北五十七	幹事長……中原 由貴	定二十五	幹事長……川方 和人	定五十四	幹事長……阿部 貴大
北五十六	幹事長……和賀 裕則	定二十四	幹事長……柴田 仁	定五十三	幹事長……
北五十五	幹事長……	定二十三	幹事長……泉 誠	定五十二	幹事長……
北五十四	幹事長……楠美 拓也	定二十二	幹事長……菅野 敏彦	定五十一	幹事長……
北五十三	幹事長……野田 仁哉	定二十一	幹事長……小柳 智弘	定五十	幹事長……
北五十二	幹事長……大友 健司	定二十	幹事長……	定四十九	幹事長……
北五十一	幹事長……宇井 辰徳	定十九	幹事長……千村 敦雄	定四十八	幹事長……
北五十	幹事長……阿部 好幸	定十八	幹事長……堀井 敏明	定四十七	幹事長……
北四十九	幹事長……池田 謙治	定十七	幹事長……錦川 敏文	定四十六	幹事長……白田 由佳



幹事の皆様大変ご苦勞様です

◎各期幹事に異動がありましたら同窓会事務局までご連絡ください。

【自 宅】〒070-0815 旭川市川端5条8丁目1-8 庄 司 和 晴
TEL(0166)51-5024 携帯電話 090-3773-2019

【勤務先】(株)サム TEL(0166)51-3434

当番期
あいさつ



第46回同窓会実行委員長
北高35期 児玉賢一

私たち三十五期は、五年前にサブ幹事期として同窓会のお手伝いをさせて頂いていただきました。その折りに約六十名の懐かしい顔ぶれが集まり、大いに旧交を温めることができました。今年の同窓会の開催にあたり、昨年の五月の連休に約二十名の同期が集まり準備委員会を発足。各係の割当の決定と協力依頼を行いました。また、昨年の同窓会当日には市内のみならず道外・道内から約六十名の級友が集い、夜遅くまで語り合うことができました。年が明けて、当番期としての結末を強めるべく、この一月には同期会新年会。五月末には札幌同期会を開催。旭川を離れて生活している級友達とも懐かしい話に花をさかせました。私自身、実行委員長の大役を引き受けた当初は不安で一杯でした。しかし、本日を迎えるまで、同期の仲間を支えてもらいながらの毎日でした。母校を卒業して二十七年経ち、久しぶりに会う友もいきましたが、会わなかった時間を感じないほど意気投合して準備を進めることができました。改めて同窓の仲間の温かさを感じ、同じ時を過ごした友への感謝の思いを深めました。

さて、今回のキャッチコピーですが、昨年度、我が愛する母校旭川北高は創立七十周年という佳節をめでたく迎えました。今年度は、創立八十周年、創立百周年に向けて新たな第一歩を踏み出す一年目です。今後の旭川北高の益々の発展と、同窓生および在校生の益々のご活躍を祈念し、心からエールを送る想いを込めて、メインタイトルを『あしたの君へ』、サブタイトルは北高応援歌の冒頭の歌詞を引用して「熱せる血潮や健児の気」としました。

普段なかなか顔を合わせることでできない旧友と昔を懐かしみ、学舎で学んだ時代に思いを馳せ、北高同窓生としての絆を深め、今後の健闘を互いに誓い合いながら、今日の再会が僅かでも皆様の心に残るものになればという願いを込めさせていただきました。

また、ポスターは、大雪山連峰に見守られながら、青空と白い雲のもと夢の実現を目指し、あの暑い夏をともしした全校応援の様子としました。北高応援旗が威風堂々と風にたなびく中、北高応援団、そして、私たち当番期が三年生の時に正式に創部された、旭川のチアリーダーを中心に、北高同窓生と在校生にエールを送っています。このようにして当番期としてこれまで準備をすすめてきましたが、何分にも不慣れな点が多々あるかと思いますが、今年と同窓会が皆様にとって思い出深いものになるよう精一杯がんばりたいと思いますので、ご容赦ください。

紙面では失礼かと存じますが、いつも支えていただいた本部役員の皆様、サブ幹事期の時に温かい激励をしてくださった三十期の諸先輩方、事あることにお気遣いいただき、ご指導くださった三十四期の諸先輩方、そして、会券販売・広告掲載のご協力をいただいた多くの皆様方に、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

最後にになりましたが、我が母校である旭川北高並びに旭川北高同窓会の益々の発展と、旭川北高同窓生と在校生の益々のご健康、ご活躍を心から祈念いたしました。当番幹事を代表してのご挨拶といたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

次期当番期
あいさつ



第47回同窓会実行委員長
北高36期 江渕賢一

我が母校である北高を卒業してから、早いもので26年が経ちました。あらためて、時の流れの速さに驚かされます。

高校時代を思い起こせば、卒業当時と変わらない威風堂々とした校舎や、それぞれ個性的ながらも温かみあつた先生方、そして何より三年間を共に過ごした旧友の顔が目に浮かんで参ります。今思えば、北高での三年間が、これまでの人生の中で最も楽しく、充実した時間であったような気がします。

当時、北高には、独特の雰囲気（校風）がありました。勉学に勤しむ者、部活に打ち込む者、遊びに興じる者が、それぞれの存在を否定せず、互いに尊重し合うことができる素晴らしい高校だったと思います。また、それが許される自由奔放さがある魅力で、きっと今も続いている良き伝統ではないかと思っております。

さて、来年当番期を迎える我が36期について、少々紹介させていただきます。敢えて言うことではありませんが、ひと言「希薄」であります。一部のクラスが数年ごとにクラス会

を開いていると聞きますが、全体的に繋がりが薄く、私個人に至っては卒業してからクラス会に参加したことがありません。（呼ばれていないだけかも知れませんが…）

当番期に向けては、人を集めることが本当に出来るのか、又集まってくれるのか、正直、不安でした。ただ、諸先輩方が築き上げてきた伝統ある北高同窓会を確実に、また、良いかたちで次期に引き継ぐことが、我々の使命であると考えています。

今後、来年の同窓会で多くの旧友との再会を果たせるよう、「希薄」を「気迫」に切り換えて、今後、準備に取り組んで参ります。

私は、正直、成り行きで次期実行委員長を仰せ付かることとなりましたが、今後確実に歩みを進めて参りますので、諸先輩方におかれましては、お力添え又御指導のほど、よろしくお願いいたします。

結びに、第46回同窓会の御盛會と、母校の益々の御発展を祈念いたしまして、次期当番期を代表しての挨拶とさせていただきます。